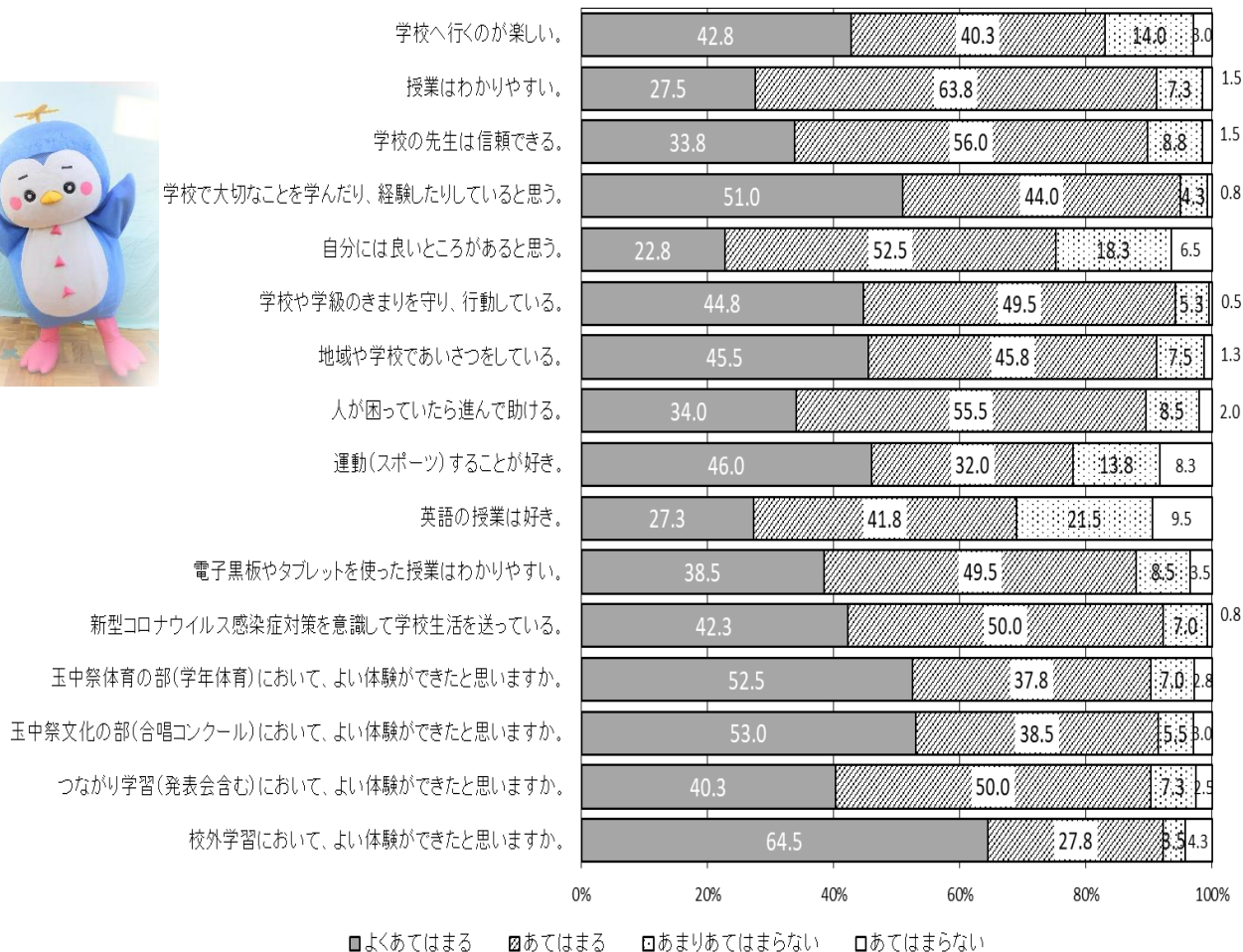


令和3年度末「学校評価」

項目	評価	コメント
教育課程 ・ 学習指導	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、「課題提示」→「グループ活動」→「まとめ・振り返り」の形態が定着し、「課題」に対応した「まとめ」を行うことで、多くの生徒が「授業が分かりやすい」と評価した。また、学力が伸び悩んでいる生徒への学習支援が進んだ。 ・1人1台端末をオンライン授業で活用したことにより、個々の教員のICTスキルが向上した。ただし、普段の授業における活用は十分とはいえなかった。 ・学校図書館の活用に課題が残った。今後の活用に工夫が必要である。 ・学校行事の満足度については、昨年度に比べ数値が上がった。このことは、コロナ禍でも内容や方法に工夫をしたことによるものと考えられる。
生徒指導	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対応は、生徒指導主事や学年生徒指導担当を中心に、組織対応ができていた。また、いじめの解消の確認を丁寧に行うことで、いじめの長期化の防止に努めた。 ・「いじめアンケート」を家庭に持ち帰らせて記入させたことにより、生徒が周囲の目を気にせず記入しやすくなり、事実の確認、早期の対応につながった。
人権・ 同和教育	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習の取組が着実に進められ、一定の成果をあげた。また、教職員の研修を計画的に実施できた。 ・今後も自尊感情を高める取組が必要である。そのためには、行事等に生徒が主体的に取り組むような仕組みをつくり、生徒が達成感を味わえるようにすることが必要である。
特別支援教育	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターや別室加配を中心としたきめ細かな支援ができた。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの円滑な連携が図れた。
保健・ 安全管理	A	<ul style="list-style-type: none"> ・防災学習を充実させることにより、教職員・生徒とも危機管理に対する意識を高めていく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、国や県からのガイドライン等の情報をその都度伝え、教職員の共通理解を図ったり、校内においては手洗いを徹底したりして、感染症対策への意識が高まった。
研修	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあっても、オンライン研修を実施することにより、研修に対する意識を高める取組が必要である。
保護者・ 地域住民 との連携	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったが、ICTを活用し、外部機関とリモートによる教育活動を展開できた。 ・コロナ禍により、生徒が地域に出かけて行う活動が全くできていない。また、保護者による授業参観、定期的な家庭訪問は実施できなかった。学校行事・地域行事を中止にするのではなく、形を変えて実施したり、延期したりすることで、生徒の活躍の可能性を広げることが必要である。
業務改善	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議の提案方法の工夫や時間順守、事務処理のデジタル化など業務改善を進めた。 ・「玉川中学校 超勤縮減の取組」を配付し、業務改善に向けての共通理解を図ったり、長時間勤務になりがちな教職員に呼びかけたりするなどにより、意識改革が進んだ。

令和3年度 生徒アンケートの結果（令和3年12月調査）



令和3年度 保護者アンケートの結果（令和3年12月調査）

